

2025年度事業報告

月	開設日数			登録 児童数 (人)	延利用 人数	利用 平均	保育料 ・事業費	活動費	レスパイト (延長保育 料)	その他	年会費・ 事務手 数料	合計
	平日 開所日数	休日 開所日数	月合計 開所日数									
4月	13	8	21	25	138	6.6	925,835	27,600	800	0	67,500	1,021,735
5月	17	4	21	26	146	7	948,713	29,200	0	0	3,000	980,913
6月	17	4	21	26	147	7	753,286	29,400	1,600	0	0	784,286
7月	11	11	22	26	162	7.4	887,042	32,400	800	4,500	0	924,742
8月	0	18	18	26	126	7	1,650,451	24,200	0	6,400	0	1,681,051
9月	16	4	20	26	147	7.4	1,797,816	29,400	0	0	0	1,827,216
10月	18	4	22	26	158	7.2	1,959,557	31,600	800	0	0	1,991,957
11月	14	7	21	26	142	6.8	1,792,991	28,400	0	0	0	1,821,391
12月	13	7	20	27	153	7.7	1,911,251	29,800	2,400	900	0	1,944,351
1月	14	6	20	28	151	7.6	1,878,349	28,800	0	450	0	1,907,599
2月	14	5	19	28	134	7.1	1,661,586	22,000	0	0	0	1,683,586
3月	12	10	22	29	166	7.6	2,112,038	32,600	0	4,500	3,000	2,152,138
合計	159	88	247	319	1770	7.2	18,278,915	345,400	6,400	16,750	73,500	18,720,965

目標 13,300,000円
実績 18,720,965円

達成率 140%

2024年度実績
25,164,472円
昨年対比 74.4%

①早期の減算解消

児童発達支援管理責任者不在の解消により、8月～の減算がなくなった。2月に実践研修を終え、みなし配置も解消済。

②基本的な支援力を身に付ける

基本的な研修を受けさせてもらった。現場に反映していくのに時間がかかっているが、研修＋現場実践にて着実に身に付けられている

③安定的な利用児の確保

平均利用数 7.2人/日

目標 7.5人/日 に対し 96%

- ・チャレンジ企画（月2回土曜日）の開催。他、特別企画を実施し、チャレンジ企画以外でも土曜日の利用者を促した。
- ・小学生、中高生との活動内容に差をつけられるようになった。
- ・必要に応じてご自宅までの送迎を行ったり、下校が早い場合には、早目の受け入れ（延長支援加算）を行った。
- ・中止や欠席による平日利用者が少なくなる時期の見通しが立てられておらず、振替対応を行うといった機転を利かせることができなかった。

2026年度行動計画

達成目標金額

23,800,000円

(月あたり約199万円)

一日平均8.3人ほど必要になる

※平均単価12,000円/人 開所20日と考えた場合

2026度現在のわたぼうし

登録児童数：29名

(小学生：17名、中高生：12名)

各曜日利用人数

月：10名、水：9名、木：9名、金：9名、土：8名

※6月より木曜日も10名になる予定（利用日追加）

2026年度現在のわたぼうし

月・金曜日：高学年向けのプログラム
(SST・実行機能ワークなど)

水・木曜日：低学年向けのプログラム
(感覚あそび・工作など)

土曜日：中高生向けのプログラム
(SST・実行機能ワーク・外出)

2026年度行動計画

大目標

「当たり前前のことを当たり前にする」

- ① 支援内容の充実と作業効率化
- ② 保護者満足度の確保

①支援内容の充実

●取組内容の充実

- 小・中高生との内容を差別化（継続）
- 自立課題の時間の設定（継続）
- アセスメントからの実態に沿った活動のフレーム作り
- 感覚統合室の活用（水・木）
- SSTや実行機能ワークなど、年間を通した内容に
- 地域との関わりが持てる設定をする
- 体験的宿泊の実施

①支援内容の充実

●支援者のスキルアップ

→研修への積極的な参加と、勉強会の開催を月１回は行っていく。認識や知識の差を埋め、個々のレベルをアップさせる。

→適切に会議や自己チェック等を行い、虐待防止や誤学習の防止、苦情や事故の防止に努める

①支援内容の充実

●支援方法の統一&効率化

- 打ち合わせ、振り返りのやり方を見直す
- 共有しやすい仕組みを作る
- それぞれの役割を明確にし、同じことをしないようにする
- 5 Sの徹底。
- 時間、空間、手続きの構造化を進める
- 施設や設備、備品の有効活用（断捨離）

②保護者満足度確保

→丁寧かつ簡潔なお迎え対応をする

（言葉遣いや声のトーンに気をつけ、長々と今日の出来事を伝えない）

→子どもの姿をよく見て、上手く出来たことを伝えられるようにする

→対応に遅れがないよう、スタッフ間で声をかけ合う

→支援内容の見える化として、やったことの成果物を見せる（渡す）

②保護者満足度確保

- おでかけや買い物など、地域との関わりが持てるような体験的なイベントの企画（チャレンジ企画）の立案
- 保護者の方が参加できるような企画の立案（夏祭り）
- 保護者会の設定（年2回 9月・1月頃）
- 学校の早帰りや欠席時の柔軟な対応

5領域支援 具体的活動

運動・感覚	サーキット等の運動遊び 校庭や庭、公園での外遊びで体を動かす 近隣でのウォーキングや体幹トレーニング	感覚統合
認知・行動	自立課題の設定 集団作り 行動アセスメントやABC分析の実施	個々の特性に合わせた構造化
言語・コミュニケーション	カード交換によるやり取りの支援 特性に合わせたスケジュールの掲示	PECS
人間関係・社会性	SSTの実施 地域のイベント参加等 公共交通機関の利用練習	チャレンジ企画
生活 地域連携等	おやつの提供で、学校と放課後の切り替え 学童との合同取り組み 保護者支援、保護者座談会の実施	イベント企画 体験的宿泊